

Hyper e-Stage KIT 取扱説明書

ノーマル50ccのシリンダーヘッドを使用したままで81ccにボアアップが出来、HEAVYなエンジンフィーリングが体験出来るキットをリリース。プラモデル感覚でEASYに組み上げて、楽しみながらエンジン構造の勉強が出来るストリートユースキットに仕上げました。

商品番号 01-05-5226
モンキー／ゴリラ Z50J-2000001～
AB27-1000001～1899999

- ・このたびは、弊社製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

▲ 使用燃料についてのご注意 ▲

EステージKITは、ノーマルに比べて高圧縮比となるように設定しておりますので、燃料は必ずハイオクタン価ガソリンを使用して下さい。レギュラーガソリンを使用すると、異常燃焼を起こして本来の性能を発揮しない上に、ピストンが壊れて重大な故障を起こす可能性があります。KIT取り付け前に燃料タンクに残っていたガソリンにも注意して下さい。レギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

▲ スパークプラグについてのご注意 ▲

スパークプラグは必ずCR8HSA (NGK) または、U24FSR-U (DENSO) に交換して下さい。尚、抵抗無しプラグの場合はC8HSA (NGK) または、U24FS-U (DENSO) に交換して下さい。スパークプラグ電極部の焼け具合により個々に合った番数を決定して下さい。

▲ スプロケットについてのご注意 ▲

このキットを取り付けると出力がアップします。ノーマルのスプロケットのままではローギアすぎて各部の摩耗が激しくなり、エンジン寿命に悪影響を及ぼすだけでなく最悪の場合はエンジンを壊してしまう恐れがあります。スプロケットのハイギア化を行って下さい。

☆ ご使用前に必ずお読み下さい ☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎この製品を取り付け、原付免許、原付登録のまま一般公道を走行されると違反となり、運転者ご本人が罰せられる対象となります。一般公道を走行される場合は、小型2輪以上の免許を取得し、必ず市町村の役所で原付2種の登録を行い、強制賠償保険の排気量アップの申請を行って下さい。
- ◎この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎製品を加工等された場合や取り付けされた場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎この製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。
- ◎取り付けの際には、上記適応車種にあったホンダ純正サービスマニュアルを参照し、確実に作業を行って下さい。
- ◎取り付けの際には、別紙記述の工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書やホンダ純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用的な専門店へご依頼されることをお勧め致します。
- ◎ボルト、ナット、ロックピンは再使用しますが、摩耗、損傷が激しいものは再使用せず、必ず新品のものをご使用下さい。
- ◎付属のフィルターを取り付けての雨天走行は出来ません。エンジン不調の原因となりますのでご注意下さい。

▲ 注意 | この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・一般公道では、法定速度を守り違法運転を心掛けて下さい。
(法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- ・作業を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
(部品の脱落の原因となります。)
- ※シリンダーヘッドは、必ず指定トルクで増し締めを行ってください。
- ・ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。

▲ 警告 | この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を確実に安定させ、安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。
(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

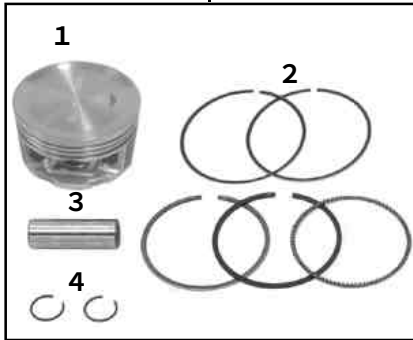
◎性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。

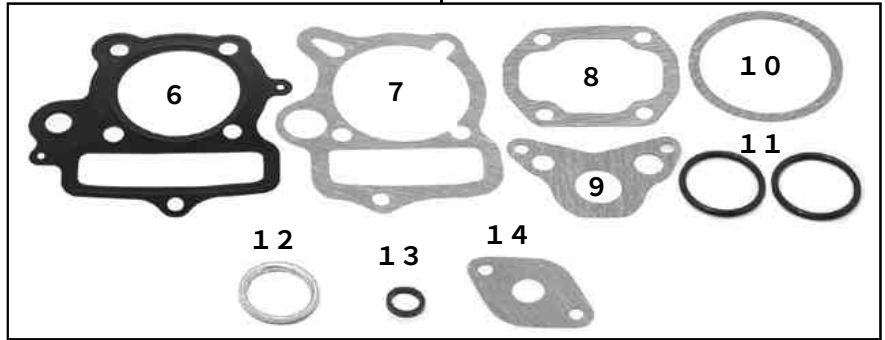
◎この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいますよう、お願い致します。

◇キット内容

01-02-522
ピストンキット



01-13-0608
ガスケットセット



番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数	番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数
1	ピストン	1	00-01-0048	1	14	インレットパイプガスケット	1	00-01-0159	2
2	ピストンリング	1	01-15-018	1	15	カムシャフト	1	01-08-0009	1
3	ピストンピン 13×36	1	00-01-0046 (セット)	1	16	PC18キャブレターASSY.	1	03-03-031	1
4	ピストンピンサークリップ	2	00-01-0003	6	17	インテイクマニホールド	1	17111-GB0-T00	1
5	シリンダー	1	01-01-0108	1	18	エアフィルター (バンド付)	1	03-01-110	1
6	シリンダーヘッドガスケット	1	12251-GFL-T10	1	19	キャブレターガスケット	1	16201-GEY-T01	1
7	シリンダーガスケット	1	00-01-0067	2	20	ソケットキャップスクリュー 6×20	2	00-00-0043	10
8	ヘッドカバーガスケット	1	00-01-0156	2	21	ソケットキャップスクリュー 6×25	2	00-00-0089	10
9	右サイドカバーガスケット	1	00-01-0157	2	22	スロットルケーブル 710mm	1	09-02-0071	1
10	左サイドカバーガスケット	1	00-01-0158	2	23	スパークプラグ CR8HSA	1	NGK-CR8HSA	1
11	タペットキャップOリング	2	00-01-0034	4	24	ドライブsprocket (プレート付) 16T	1	02-05-051	1
12	エキゾーストパイプガスケット	1	00-01-0064	2	25	メインジェット #85	1	00-03-0041	1
13	ラバーパッキン	1	00-01-0066	2	26	原付二種マークセット	1		1

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。
尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいます様お願い致します。

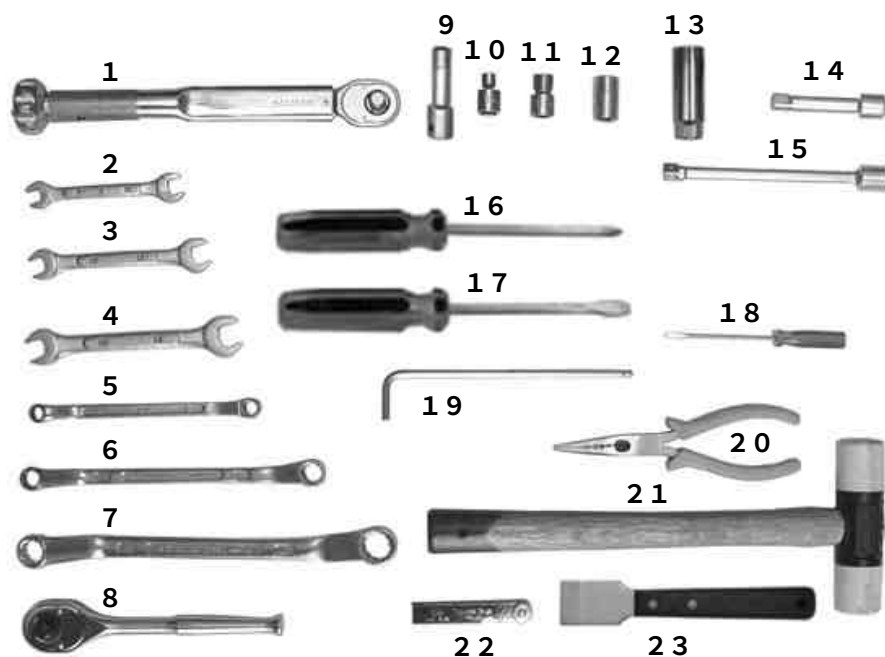
作業の前に

- 作業を行う前に車両は水平な場所で確実に安定させて下さい。備え付けのサイドスタンドで車両を支えるよりもレーシングスタンド等の使用をお勧めします。車両を確実に安定させながら作業を行うことが出来ます。
- 作業は必ずエンジンを停止させた上に冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行ってください。
- フューエルコックはOFFにして下さい。
- 再使用するボルトやナットや各パーツは取り外した際にホコリやオイルなどの汚れを取り除いてきれいにして下さい。
- 取り外したボルトやナットや各パーツは無くさないよう、どの場所に使用するのかわかるように保管して下さい。

工具について

- 正しい工具を正しく使用しない場合はボルトやナットや各パーツのかかり部分やネジ部分が破損する場合があります。
 - 取り付けの経験が無いほど正しい工具が必要です。また、それらを正しく使用する経験も同様に必要です。準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。
 - この商品の取り付けに使用する工具等を下記に掲載しますので参考にして下さい。なお、車種やその年代により工具の内容が異なる場合がありますのでご了承下さい。
- ※工具は同じ名前のもので数々のメーカーや種類があったり、同じ工具でも名前が違ったりします。また、好みもありますので参考程度でお考え下さい。

◇取り付けに使用する工具等



1	トルクレンチ
2	スパナレンチ 8-10mm
3	スパナレンチ 10-12mm
4	スパナレンチ 12-14mm
5	オフセットレンチ 8-9mm
6	オフセットレンチ 10-12mm
7	オフセットレンチ 14-17mm
8	ラチェットハンドル
9	ディープソケット 8mm
10	ソケット 8mm
11	ソケット 10mm
12	ソケット 12mm
13	プラグソケット
14	エクステンションバー 小
15	エクステンションバー 中
16	ドライバープラス 中
17	ドライバーマイナス 中
18	細軸ドライバーマイナス
19	6角棒レンチ 5mm
20	ラジオープン
21	プラスチックハンマー
22	ショックネサージ
23	スクレーパー
	チェーンカッター
	針金等
	ウエス
	エンジンオイル

ボルトについて

- 普通、ボルトとナットは反時計方向に回すと緩み、時計方向に回すと締まります。
- ネジを締める場合は最初から工具を使用せず、まずは指で締まるところまで締めましょう。
- ネジを緩めるということは、締まっている状態から3～4回転反時計方向に回すことをいい、取り外すということはネジが取れるまで反時計方向に回すことをいいます。
- ネジを締めるということは、ネジを緩まないように締めることをいいます。ただ、ボルトは強く締め過ぎると折れ、弱過ぎると走行中に振動等で緩んで部品脱落の恐れがあり、大変危険です。ボルトが折れない・緩まないような締める力を数値として表したのが規定トルクです。また、その数値はボルトの大きさによって変わります。
- トルクレンチを用意することが出来ない方は折れない・緩まない力でネジを締めれるのであれば試して下さい。但し、弊社では責任を負いません。トルクレンチが無くてもどのぐらいの力で締めると折れるのか、緩むのかは経験と勘でしか補えません。

●ご走行前に

① お願い

◇一般公道を走行される場合は小型 2 輪以上の免許を取得し、市町村の役所で原付 2 種の登録を行い、強制賠償保険の排気量アップの申請を行って下さい。

※原付免許、原付登録のまま一般公道を走行されると違反となり運転者ご本人が罰せられる対象となります。

◇キット内の原付 2 種マークをお貼り下さい。

② スプロケットの変更

◇このキットを取り付けると出力がアップし、ノーマルのスプロケットのままではローギアすぎて扱いにくい状態になります。また、各部の磨耗が激しくなり、エンジン寿命に悪影響を及ぼすだけでなく最悪の場合はエンジンを壊してしまう恐れがあるために必ずドライブ／ドリブンスプロケットを変更し、スプロケットのハイギア化を各自で行って下さい。

※ドリブンスプロケットはキット内に含まれておりません。

※ドリブンスプロケットはクラッチ形式やホイールサイズにより変わります。下の表を参考にして下さい。また、体重や使用用途、好みによるものもありますので参考程度でお考え下さい。

※ドリブンスプロケットを変更する時はリアホイール周りを取り外します。レーシングスタンド等で車両を確実に支え、リアホイールを浮かせて作業を行って下さい。

ハイパー e ステージキット推奨スプロケット (体重 65 kg 時)

ホイール サイズ	クラッチ (プライマリーギア)	トランスミッション	ドライブ スプロケット (フロント)	ドリブン スプロケット (リア)
8 インチ	ノーマル、強化 (16 / 69)	ノーマル 4 速	16	23
	強化、スペシャル (18 / 67)	ノーマル 4 速	16	25
10 インチ	ノーマル、強化 (16 / 69)	ノーマル 4 速	16	25
	強化、スペシャル (18 / 67)	ノーマル 4 速	16	28

③ ドライブチェーンについて

◇推奨スプロケットに変更すると調整だけではドライブチェーンのたるみを無くすることが出来ない、または足りなくなる場合があります。チェーンカッター等を使用してチェーンを短くする必要や、新たにドライブチェーンを用意する必要があります。又、スイングアームの長さによりチェーンの長さも変わります。

ドライブ スプロケット	ドリブン スプロケット	スイングアームの長さでチェーンのリンク数				
		ノーマル	4 cm ロング	8 cm ロング	12 cm ロング	16 cm ロング
13 (ノーマル)	31 (ノーマル)	74 (ノーマル)	—	—	—	—
16	23	72	76	84	90	98
16	25	72	76	84	90	98
16	28	—	—	—	92	100

④ 使用ガソリンについて

◇燃料は必ずハイオクタン価ガソリンをご使用下さい。

◇燃料タンクにレギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

◇このキットはノーマル点火時期にて使用することに限ります。点火時期を極端に早める場合には対応しかねますのでご了承下さい。

●更なる性能を発揮させるために

① マフラー

更なるパワーアップには弊社製各種マフラーをご使用下さい。

② オイルポンプ

出力アップに伴い、エンジン発熱量も増大します。大量のオイルを循環し各部の冷却や負担を軽減するスーパーオイルポンプの装着をお薦めします。

e ステージ 推奨スーパーオイルポンプ : 01-16-0053 (加工工具付属)

: 01-16-0052 (加工工具無)

③ オイルクーラー

エンジンに長時間の負荷を与える走行はエンジン発熱量が更に増大します。油温を適切に保ち、高温時に発生する油膜切れ等を防止するオイルクーラーキットの装着をお薦めします。

STD部品取り外し

1. シートを取り外す



◇サイドカバーを取り外す。



◇シート下のナットを緩め、ボルトを取り外す。



◇リアショックの左右のナットを緩める。



◇シートを後方に引いて取り外す。

2. フューエルタンクを取り外す



◇フューエルコックをOFFにする。



◇チューブクリップをずらし、キャブレターのフューエルチューブの接続を外す。



◇フューエルタンクをフレームにとめているボルトを取り外す。



◇フューエルタンクを後方に引いて取り外す。



◇キャブレターのトップキャップを外し、スロットルバルブをキャブレターから抜き取る。

◇ワイヤーハーネスをフレームの下側になるように移動させる。

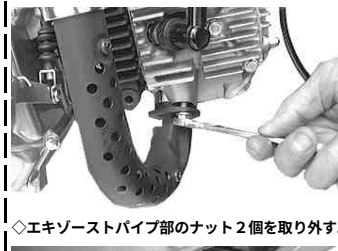
3. キャブレターを取り外す



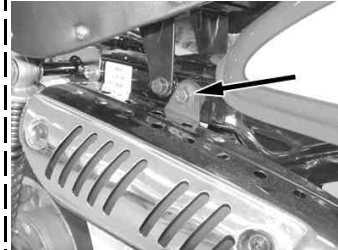
◇キャブレターのトップキャップを外し、スロットルバルブをキャブレターから抜き取る。

◇ワイヤーハーネスをフレームの下側になるように移動させる。

4. マフラーを取り外す



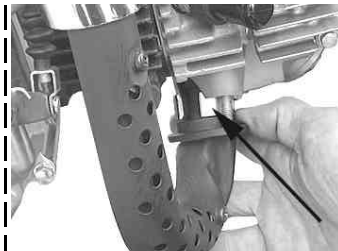
◇エキゾーストパイプ部のナット2個を取り外す。



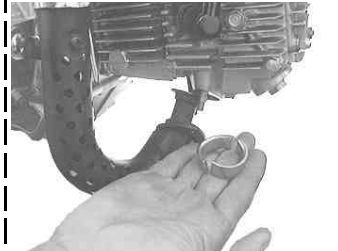
◇マフラー本体を止めている六角ボルトを取り外す。



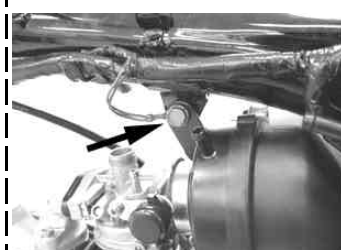
◇マフラー本体裏側に止まっているナットを取り外す。



◇フランジのカラー2個を取り外し外側に引く様にしてマフラーを車体から取り外す。



◇ストレージタンクのホース(フレームNo.AB 27-の車両の場合)を抜き取る。



◇エアクリナーステー部のボルトを取り外す。



◇インレットパイプをシリンダーヘッドにとめているボルト2本を取り外しインレットパイプ、キャブレター、エアクリナーを取り外す。



◇アース線をエアクリナーステー部のボルトでフレームに取り付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)



クランプ ワイヤーハーネス

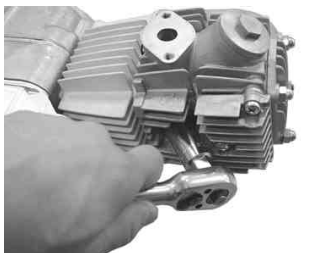
◇ワイヤーハーネスをフレームの下側になるように移動させる。

5. フロントフェンダーを取り外す



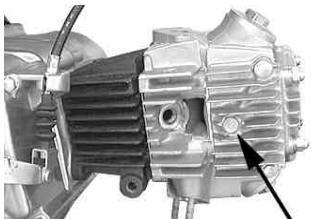
◇フロントフェンダー裏側の6角ボルト2本を取り外す。

6. スパークプラグを取り外す



◇プラグキャップをプラグから引っ張って取り外す。必ずキャップ部分をつかんで引っ張って外す。
◇車載工具のプラグレンチを使いプラグを取り外す。

7. シリンダーヘッド左カバーを取り外す



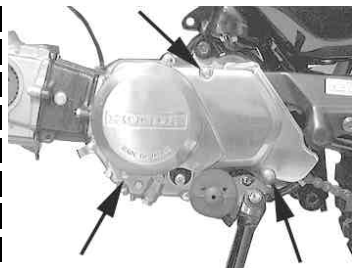
◇シリンダーヘッド右カバーの真ん中の6角ボルトを外すと左カバーが外れる。(ボルトを外しても外れない場合6角ボルトを2〜3山ねじ込み6角ボルトの頭をハンマー等で軽くたたくと外れる)



8. クランクケース左カバーを取り外す



◇シフトペダルの6角ボルトを外しチェンジペダルを取り外す。



◇クランクケース左カバーを止めているボルト3本を取り外す。

9. タペットキャップ2個を取り外す

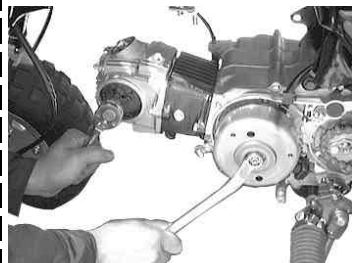


◇タペットキャップ2個を取り外す。

10. カムスプロケットを取り外す



◇フライホイールのTマークとカムスプロケットのOマークが各切り欠きに合う様にフライホイールを反時計方向に回転させて合わせる。



◇フライホイールを固定しカムスプロケット6角ボルト2個を取り外す。

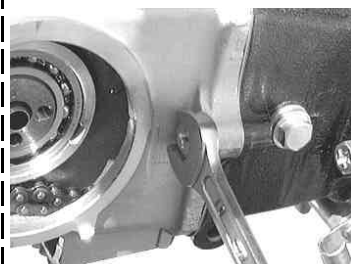


◇カムプロケットを小型のマイナスドライバー等でこじてカムシャフトから外す。
◇カムスプロケットをカムチェーンから取り外して取り出す。



◇カムシャフトの中心部にはまっているノックピンを外す。

11. シリンダーヘッドサイドボルトを取り外す



◇シリンダーヘッドとシリンダーを止めているシリンダーヘッドサイドボルトを取り外す。

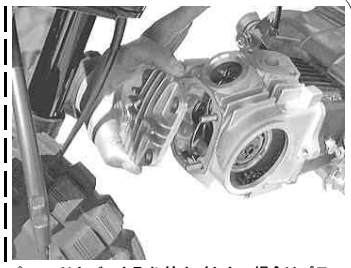


◇シリンダーのガイドローラーボルトとシリンダーとクランクケース間のサイドボルトを緩める。

12. シリンダーヘッドカバーを取り外す



◇シリンダーヘッドカバーを止めているナット4個を対角の順番に数回に分けて緩めて取り外す。
◇ナット下にあるワッシャ4枚を取り外す。

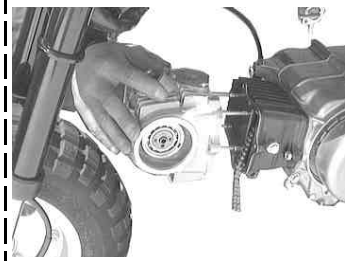


◇ヘッドカバーを取り外す。(かたい場合はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す)
◇シリンダーヘッドにガスケットが残った場合は、スクレーパーできれいに取り除く。

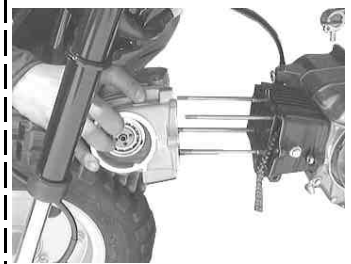
13. シリンダーヘッドを取り外す



◇フロントタイヤの空気を抜く。(ドライバーの先等でバルブを押すとエアが抜けるのでシューという音がでなくなるまで押し続ける。)

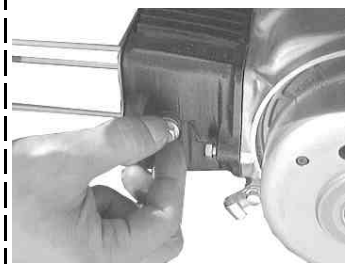


◇シリンダーヘッドをシリンダーから前方へ引っ張って取り外す。(かたい場合はシリンダーヘッドをプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す)



◇フロントタイヤを押しながらシリンダーヘッドを取り外す。

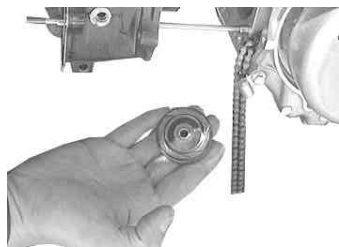
14. シリンダーを取り外す



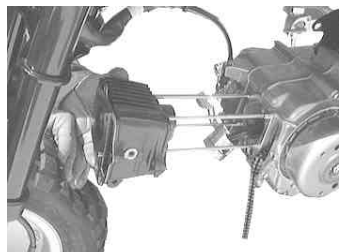
◇緩めておいたガイドローラーボルトとシリンダーサイドボルトを取り外す。



◇シリンダーを引っ張って取り外す。(かたい場合はプラスチックハンマーでシリンダーを軽くたたき、取り外す。)



◇シリンダーを抜く途中でカムチェーンガイドローラーが出てくる。



◇ピストンが抜けたらタイヤを手で押さえながらシリンダーを前方へ取り外す。

15. ピストンを取り外す



◇クランクケースのシリンダーホールとカムチェーン部にゴミや部品などを絶対落とさないようにウエスを詰め込む。

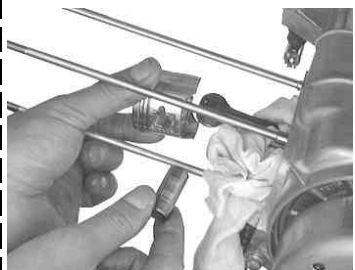


ピストンピンサークリップ

◇ピストンピンサークリップの片側を取り外す。
◇ピストンピン穴の切り欠き部を利用してこじるようにすると外れる。

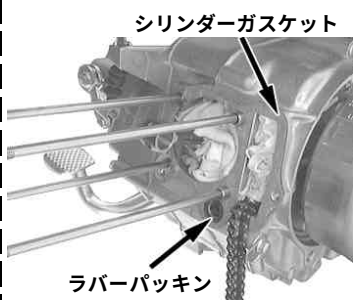


◇ピストンピンをサークリップが付いていない方向へ取り外す。サークリップの付いている方向からマイナスドライバーで押すと簡単にとれる。



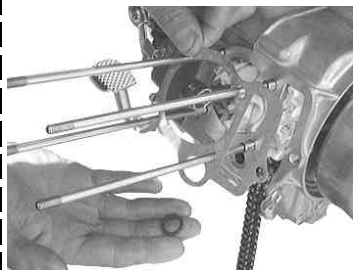
◇ピストンを取り外す。

16. 取り付け面をきれいにする



シリンダーガスケット

ラバーパッキン



◇シリンダーガスケットやラバーパッキンを取り除く。

◇ガスケットがきれいにはがれない場合は、スクレーパーできれいに取り除く。

◇この時クランクケースセンターガスケットがシリンダーベース面やシリンダーホール部にはみ出ている場合は切り取っておく。

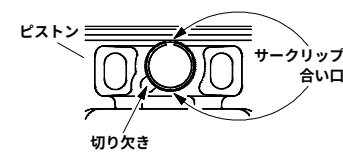
※クランクケース内にゴミや部品などを絶対落とさないように。



◇上写真の指さし部にはみ出ているガスケットがあれば切り取っておく。

e-StageKIT 取り付け

1. ピストンを組み付ける



◇ピストンの片側に付属のピストンピンサークリップをサークリップ溝にきっちりはめ込む。この時、サークリップの合い口は切り欠き部を避けて、ピストン上下方向に向けて取り付け。

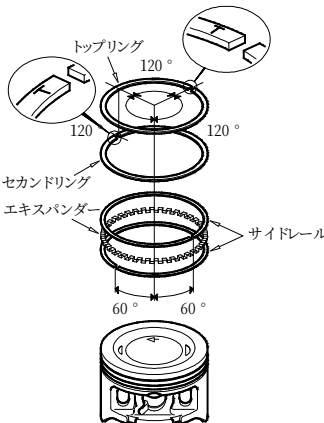
エキゾーストマーク



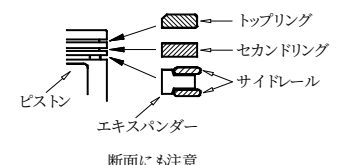
◇ドライバーでピストンにキズを付けないように押し込むと比較的簡単に取り付けられる。

◇ピストンリングみぞにエンジンオイルを塗りピストンリングをオイルリングエキスパンダー、下オイルリングサイドレール、上オイルリングサイドレール、セカンドリング、トップリングの順に取り付ける。

◇ピストンリングの合い口をそろえる



トップリングおよびセカンドリングは文字面を上にして取り付け。トップリングは茶色、セカンドリングは黒色になっているので注意する事。



◇オイルリングエキスパンダーを入れる。



◇下オイルリングサイドレールを入れる。



◇上オイルリングサイドレールを入れる。



◇文字面を上にしてセカンドリング（黒色）を入れる。



◇文字面を上にしてトップリング（茶色）を入れる。



◇ピストンピン部とコンロッドにエンジンオイルを塗りピストンピンを取り付ける。

エキゾーストマーク

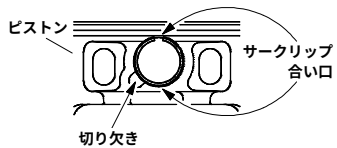
◇ピストンヘッド部矢印マークの先を下（エキゾースト側）になるようにしてピストンを取り付ける。



◇ピストンに三分の一程度ピストンピンを挿し込んで取り付けるのも簡単な方法ではある。



◇付属のピストンピンサークリップをサークリップ溝にきっちりめ込む。この時、サークリップの合い口は切り欠き部を避けて、ピストン上下方向に向けて取り付ける。



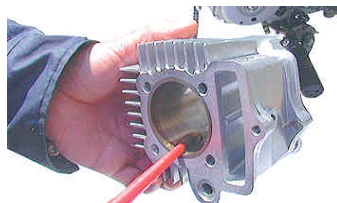
◇ドライバーでピストンにキズを付けないように押し込むと比較的簡単に取り付けられる。
※押し込み中にサークリップが外れて飛んでしまうことがあるので慎重に行う事。
◇詰っていたウエスを取り外す。

2. シリンダーの取り付け

◇シリンダーとクランクケースの取り付け面をシナー等で脱脂する。



◇シリンダーのガイドローラーボルト穴にガイドローラーのセンターが合う様に押し込み、シーリングワッシャーとガイドローラーボルトを取り付ける。（指で閉まる程度まで仮止め）



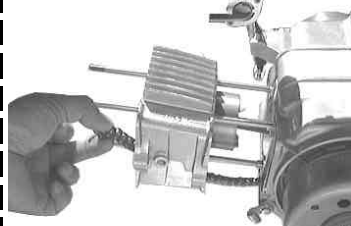
◇キットのシリンダー内にエンジンオイルを塗布し指で均等に塗り広げる。



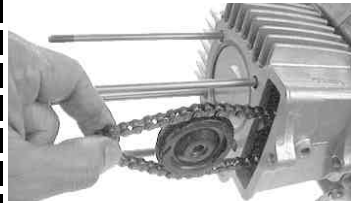
◇タイヤを押さえながらシリンダーを入れていく。



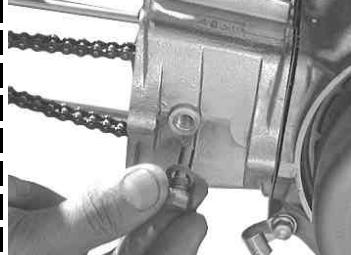
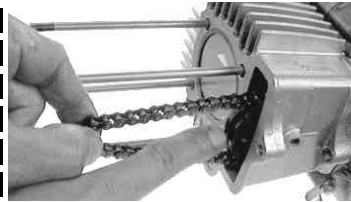
◇シリンダーをピストンリングの合い口がずれない様にながら指で押し少しずつはめる。



◇リングがシリンダーにはいたらカムチェーンをシリンダーに通しシリンダーをクランクケースにはめる。



◇カムチェーンを引っ張りながらガイドローラーを入れる。



◇キット内のカムシャフトの逆の手順で取り付ける。入りにくてもハンマー等でたたかず手で入れる。

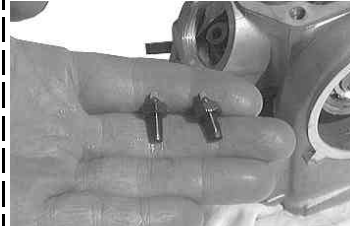


◇ロッカーアームのアジャストスクリューとアジャストナットを取り付ける。

3. カムシャフト交換



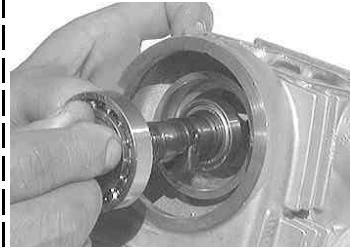
◇シリンダーヘッドに組まれているロッカーアームのアジャストナットとボルトを取り外す。アジャストナットを緩めた時点でタペットボルトをナットと一緒に取り外す。



◇カムシャフトにカムスプロケットボルトを取り付け、引っ張るかプラスチックハンマーでヘッドを軽くたたきと抜けてくるので無理に引っ張らずカムシャフトを回しながら取り外す。



◇キット内のカムシャフトのカム部とベアリング部にきれいなエンジンオイルを塗る。



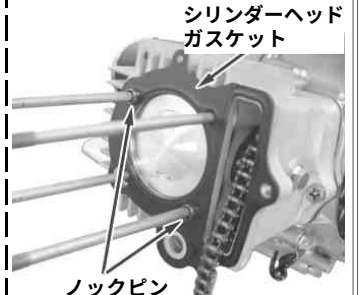
◇ロッカーアームのアジャストスクリューとアジャストナットを取り付ける。



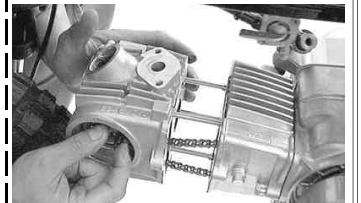
◇シリンダーヘッドカバーのガスケットとヘッドカバーを取り付ける。

4. シリンダーヘッドの取り付け

◇シリンダーヘッドとシリンダー取り付け面をシナー等で脱脂する。

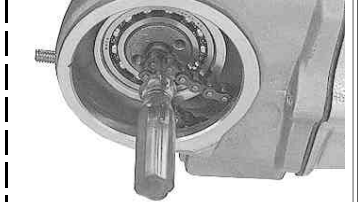


◇シリンダーにノックピンA（長さ14mm）2個、シリンダーヘッドガスケットを取り付ける。

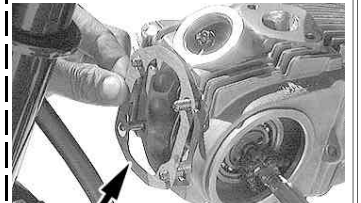


◇タイヤを手で押しながらシリンダーヘッドをスタットボルトに通す。

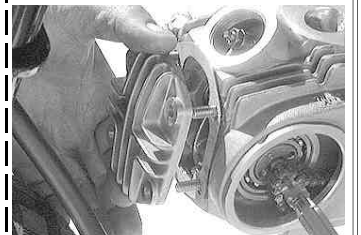
◇シリンダーヘッドにカムチェーンを通しながら取り付ける。



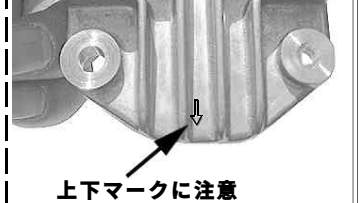
◇カムチェーンはシリンダーの方に落ちない様にカムシャフトの真ん中の穴にドライバー等を入れてカムチェーンを止めておく。



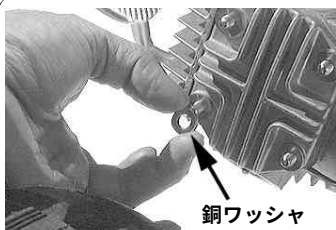
◇シリンダーヘッドカバーのガスケットとヘッドカバーを取り付ける。



◇シリンダーヘッドカバーのガスケットとヘッドカバーを取り付ける。



◇矢印は下の方向（排気側）になる事。



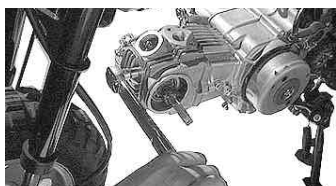
銅ワッシャ

◇ヘッドカバーのワッシャを位置に注意して取り付け。(エンジンを前から見て左下に銅ワッシャがくる事。)



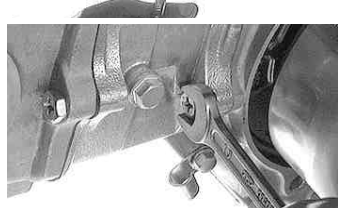
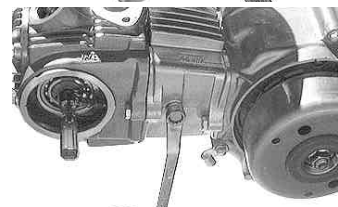
六角ナット

◇ヘッドナットを位置に注意して取り付け。(エンジンを前から見て右下に六角ナットがくる事。)



◇ヘッドナットを対角に数回に分けて締め付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：1.1 N・m (1.1 kgf・m)



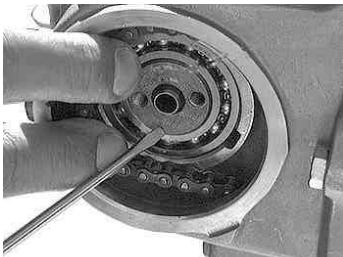
◇シリンダーヘッドのサイドボルトを取り付け、仮止めたガイドローラーボルトとシリンダーのサイドボルトも締め付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
ガイドローラーボルト：
1.0 N・m (1.0 kgf・m)
サイドボルト上下：
1.0 N・m (1.0 kgf・m)

5. カムプロケットの取り付け



◇フライホイールのTマークをクランクケースの切り欠き部に合わせる。

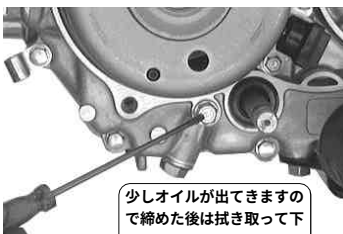


◇カムプロケットボルト穴をシリンダーヘッドの切り欠き方向に向けたときカム山がピストン側を向く様にカムシャフトをセットする。それがカムシャフトの圧縮上死点です。

※オプションカム取り付けの場合、オプションカムの説明書の指示に従って下さい。

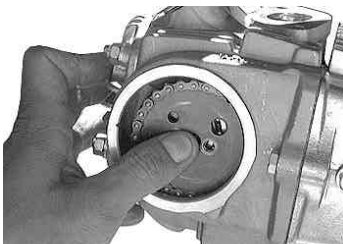


◇カムシャフトにノックピンを取り付ける。



少しオイルが出てきますので締めた後は拭き取って下さい。

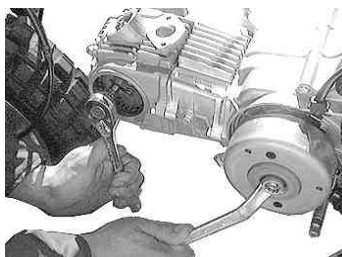
◇チェンジベタルのシャフトの横にあるボルトを取り外す。カムチェーンを引っ張っているテンショナーが緩むのではめやすくなる。



◇カムプロケットのOマークとシリンダーヘッドの切り欠き部が合う様にカムチェーンをはめてカムシャフトに取り付ける。

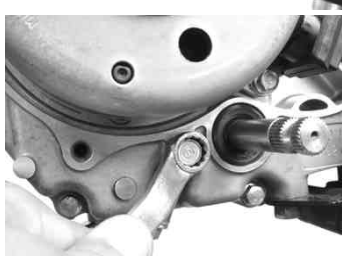


◇カムプロケットをはめた後はボルトを取り付ける。



◇フライホイールを固定してカムプロケットボルトを2本締め付ける。

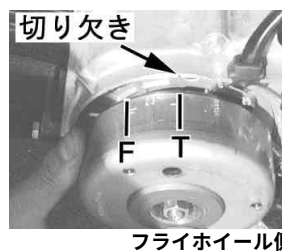
⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：9 N・m (0.9 kgf・m)



◇先程、取り外したチェンジベタルシャフト横のボルト穴にエンジンオイルを少量注入し、ボルトとシーリングワッシャを取り付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：1.0 N・m (1.0 kgf・m)

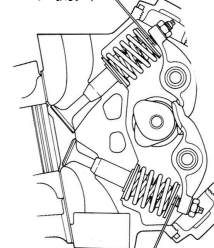
6. バルブクリアランスの調整



フライホイール側

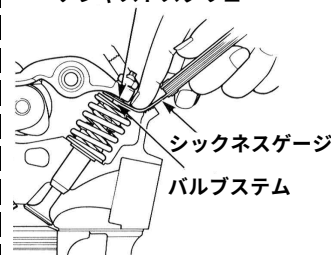
◇カムシャフトのOマークとフライホイールのTマークがそれぞれの切り欠きに合う様にして止める。磁石の反発でフライホイールはピッタリと止まらないうちにカムプロケットを取り付けてTマークとOマークが同時に会えばOK。

バルブクリアランス (インテーク側)



バルブクリアランス (エキゾースト側)

アジャストスクリュー



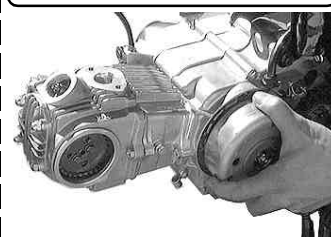
シックネスゲージ

バルブシステム

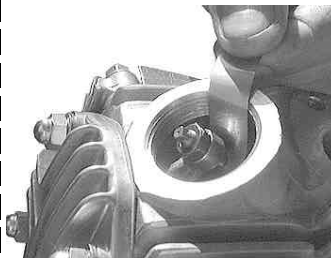


◇ロッカーアームのアジャストスクリューとバルブシステムエンドの間に0.05ミリのシックネスゲージを入れてアジャストスクリューを締め込んでいき、少し抵抗があるくらいでシックネスゲージが引き抜ける様に合わせてアジャストナットを締め付ける (少し抵抗があるというのがわからない場合0.07と0.03のシックネスゲージを用意して0.07がすき間に入らず0.03が緩めに入る様に合わせればだいたい0.05ミリということになる) IN・EX共に0.05ミリに合わせる。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
アジャストナット：
9 N・m (0.9 kgf・m)

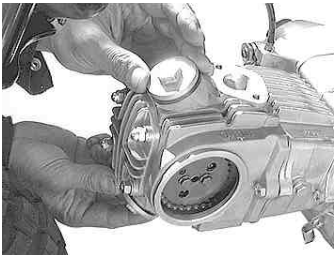


◇タペット調整後、反時計方向にフライホイールを2回転手で回した後でTマークとOマークを合わせる。



◇バルブクリアランスが変化していないか点検する。変化している場合は再度調整し、合うまでこの作業を繰り返す。

7. タベットキャップの取り付け 9. スパークプラグの取り付け



◇タベットキャップ2個を取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kg f・m)

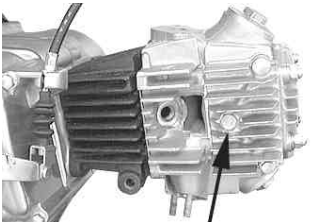
8. シリンダーヘッド左カバーの取り付け



◇シリンダーヘッド左カバーガスケットと左カバーを取り付ける。
(左サイドカバーがボルトを締めるときに右回りに回り止めを合わせる)

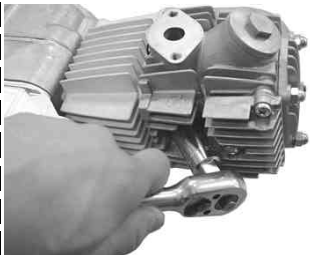


(回り止めを合わせる)



◇シーリングワッシャーとシリンダーヘッド右側のボルト (矢印) を締める。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kg f・m)

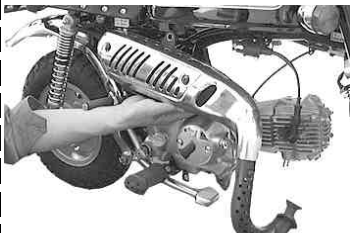


◇プラグレンチを使いプラグを取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：11 N・m (1.1 kg f・m)

◇プラグキャップをプラグに取り付ける。

10. ノーマルマフラーの取り付け



◇マフラーは、先にテールパイプをリアショックの内側を通しフランジ部分をシリンダーヘッドの排気出口付近まで持っていく。



◇フランジのカラー2個をエキゾーストパイプを挟み込むようにして取り付ける。



◇エキゾーストパイプ部のナット2個を締める。(仮止め)

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kg f・m)



◇マフラー本体裏側にナットを取り付ける。(仮止め)

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kg f・m)



◇マフラー本体を止めている6角ボルトを取り付ける。(仮止め)

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：27 N・m (2.7 kg f・m)

◇仮止めの3ヶ所を締め付ける。

11. フロントフェンダーの取り付け



◇フロントフェンダー裏側の6角ボルト2本を締めて取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kg f・m)

◇タイヤの空気を入れる。

12. スロットルケーブルの取り付け

◇ノーマルスロットルケーブルのワイヤリングを外す。



◇6角ナットを緩める。



◇スクリーン2本を外し、アッパースロットルハウジングを取り外す。



◇スロットルパイプからスロットルケーブルのインナーケーブルを外す。



◇ロアスロットルハウジングからノーマルスロットルケーブルを取り外す。



◇キット内のスロットルケーブルをロアスロットルハウジングに取り付ける。



◇インナーケーブルをスロットルパイプに接続する。



◇アッパースロットルハウジングを2本のスクリーンで取り付ける。
※このとき、前側のスクリーンを先に締め付ける。



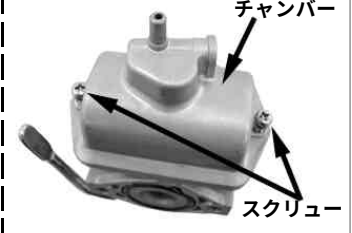
※ノーマルハンドルの場合、スロットルハウジングの分割部をハンドルの“O”マークに合わせる。

◇スロットルケーブルのワイヤリングをする。



◇6角ナットを締め付ける。

13. メインジェットの交換



◇2本のスクリーンを外してフロントチャンバーを取り外す。

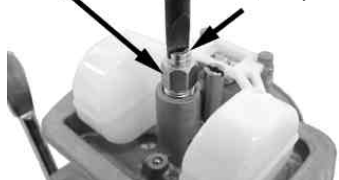
フロートピン



※フロートピンは外れやすいので注意して下さい。

ジェットホルダー

メインジェット



◇メインジェットをジェットホルダーから取り外す。



◇キットのメインジェットを取り付ける。



◇フロートチャンバーを取り付け、2本のスクリューでキャブレターに取り付ける。

14. キャブレターの取り付け

インレットパイプ
ガスケット



◇インテイクマニホールドとシリンダーヘッドにインレットパイプガスケットをはさみ、ソケットキャップスクリュー6×25 2本で取り付け。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)

キャブレター
ガスケット

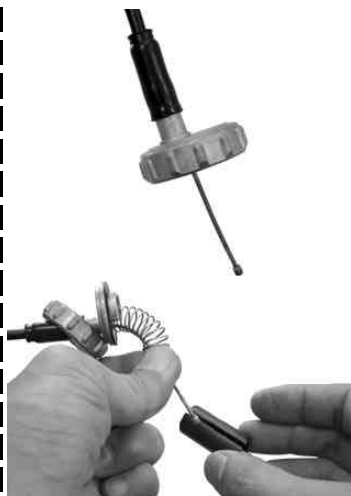


◇PC18キャブレターとインテイクマニホールドにキャブレターガスケットをはさみ、ソケットキャップスクリュー6×20 2本で取り付け。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)



◇PC18キャブレターのトップキャップを外し、スプリング、スロットルバルブを抜き取る。



◇スロットルケーブルにトップキャップを取り付け、スプリングを入れてインナーケーブルにスロットルバルブを取り付ける。

切り欠き



◇スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャブレターに差し込み、取り付け。



◇キャブレターのくぼみにトップキャップの凸を合わせて取り付け。

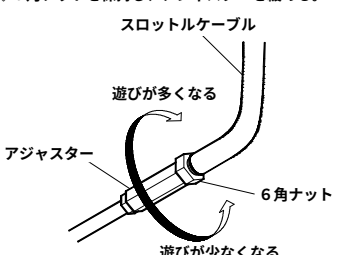
15. スロットルの遊びの調整



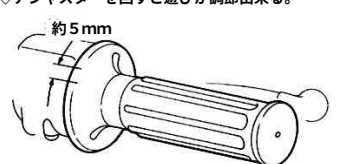
◇スロットルケーブルのブーツをめくり、アジャスターを出す。



◇六角ナットを保持し、アジャスターを緩める。



◇アジャスターを回すと遊びが調節出来る。



◇スロットルグリップ部で5mm程度の遊びになるように調整する。

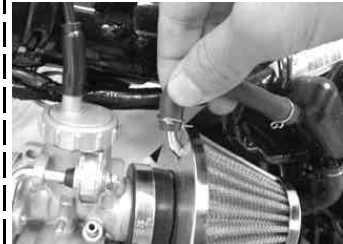
◇アジャスターを固定し、六角ナットを締め付ける。

◇スロットルをスナップさせ、スロットルバルブがスムーズに動くか確認する。
◇ハンドルを左右にいっぱい切ってもスロットルに遊びがあることを確認する。
◇ブーツをかぶせる。

16. エアフィルターの取り付け



◇バンドをエアフィルターに付け、キャブレターに差し込む。バンドを締め付ける。



◇ストレージタンクのホースをエアフィルターに取り付ける。
(フレームNo. AB27の車両の場合)

17. フューエルタンクの取り付け



◇フューエルタンクをフレームに取り付ける。



◇フューエルタンクをフレームにボルトで取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)



◇フューエルチューブをキャブレターに接続する。

18. シートの取り付け



◇リアショックの2枚のワッシャの間にシートステーのフックを差し込み、取り付け。



◇シート下にボルトを差し込み、ナットを取り付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：22 N・m (2.2 kg f・m)



◇リアショックの左右のナットを締め付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：34 N・m (3.5 kg f・m)



◇サイドカバーを取り付ける。

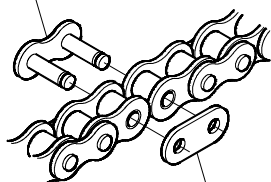
19. ドライブ（エンジン側）スプロケットの取り付け



クリップ

◇ドライブチェーンのクリップを取り外す。

マスターリンク



リンクプレート

◇リンクプレートとマスターリンクを取り外し、ドライブチェーンを取り外す。

※作業の際は必ずエンジンを停止する事。



◇リアブレーキをかけながらボルト2本を取り外す。



◇プレートを取り外す。



◇ノーマルのスプロケットをシャフトから抜き、チェーンを取り外す。



◇キットのスプロケットをシャフトに差し込む。



◇キットのプレートを取り付け、ボルト2本を仮止める。

20. ドリブン（リアタイヤ側）スプロケットについて

※ドライブスプロケットの変更に伴い、ドリブンスプロケットも変更し、スプロケットのハイギア化を行います。

※ドリブンスプロケットはクラッチ形式やホイールサイズにより変わります。下の表を参考にして下さい。

★ハイパー-e ステージキット推奨スプロケット（体重65kg時）

ホイール サイズ	クラッチ	ドライブ スプロケット	ドリブン スプロケット	減速比
8	ノーマル	16	23	1.43
インチ	強化、スペシャル	16	25	1.56
10	ノーマル	16	25	1.56
インチ	強化、スペシャル	16	28	1.75

※ドリブンスプロケットはキットに含まれておりません。別途お買い求め下さい。

※ドリブンスプロケットを変更する時はリアホイール周りを取り外します。

レーシングスタンド等で車両を確実に支え、リアホイールを浮かせて作業を行って下さい。

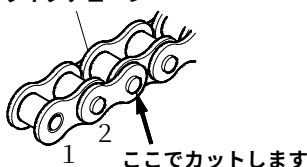
21. ドライブチェーンについて

※ノーマルのスプロケットから推奨スプロケットに変更すると調整だけではドライブチェーンのたるみを無くすことは出来ません。チェーンカッター等を使用し、チェーンを短くする必要があります。また、スイングアームの長さによりチェーンの長さも変わります。下の表を参考にして下さい。

★スプロケットとチェーンのリンク数

ドライブ スプロケット	ドリブン スプロケット	ノーマル	スイングアームの長さでチェーンのリンク数			
			4cmロング	8cmロング	12cmロング	16cmロング
13 (ノーマル)	31 (ノーマル)	74 (ノーマル)	—	—	—	—
16	23	72	76	84	90	98
16	25	72	76	84	90	98
16	28	—	—	—	92	100

ドライブチェーン

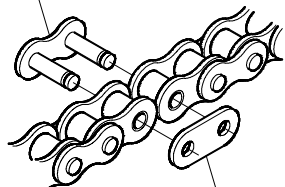


◇例えば、ノーマルスプロケット、ノーマルスイングアームからドライブスプロケット16丁・ドリブンスプロケット23丁に変更する場合、ノーマルチェーンから2リンクカットして下さい。

※作業の際は必ずエンジンを停止する事。

◇ドライブチェーンをドライブスプロケット、ドリブンスプロケットに取り付ける。

マスターリンク



リンクプレート

◇マスターリンクを内側から取り付けてドライブチェーンを接続し、リンクプレートを取り付ける。



◇クリップを取り付ける。

※この時、クリップの合い口は進行方向に対して逆に向ける事。

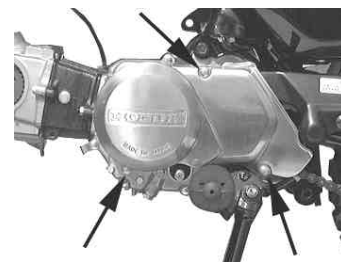


◇仮止めしていたドライブスプロケットのボルトを締め付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

トルク：12N・m (1.2kgf・m)

22. クランクケース左カバーの取り付け



◇クランクケース左カバーを止めているボルト3本を取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

トルク：10N・m (1.0kgf・m)



◇チェンジペダルを取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

トルク：10N・m (1.0kgf・m)

◇エンジンから足廻りまで取り付けたボルト類に緩みがないかチェックする。



◇フューエルコックをONにする。

株式会社 **SPECIAL PARTS** 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号

TEL 0721-25-1357

FAX 0721-24-5059

お問い合わせ専用ダイヤル 0721-25-8857

URL <http://www.takegawa.co.jp>

キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
・爆発音が重い感じで断続する。 ・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。 ・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。 ・クリーナーを外すと調子が良くなる。 ・排気ガスが濃い。(黒い) ・プラグが黒くくすぶる。	・エンジンがオーバーヒート気味になる。 ・チョークを作動すると、調子が良くなる。 ・加速が悪い。(息付きをおこす) ・回転変動があり、力がない。 ・プラグが白く焼ける。

※キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。

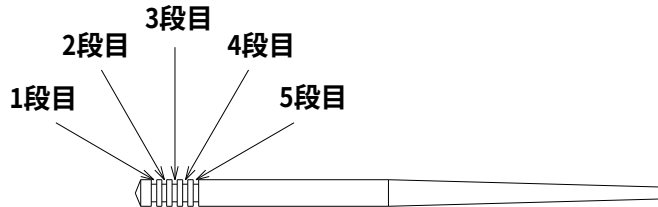
※エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

○ジェットニードル (スロットル開度1/4-3/4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がりが高く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目へ下がるにつれ混合気は濃くなります。



○メインジェット (スロットル開度3/4-4/4)

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。仕様等を考慮の上、最高回転数(最高速度)の得られる物を選んで下さい。

○パイロットジェット (調整前にまずエアスクリューを調整して下さい。)

- ・エアスクリューの戻し量3.0回転以上の場合、パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリューが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
- パイロットジェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

○エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・エアスクリューを右に回す→混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す→混合気が薄くなる。

標準戻し回転数(1.5回転)に合わせ、左右に1/4-1/2回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。

アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

●気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

◎この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。